## 法政大学学術機関リポジトリ

## HOSEI UNIVERSITY REPOSITORY

PDF issue: 2025-01-01

〈紹介〉木曽: 木曽綜合農村調査報告書

青木, 千枝子

(出版者 / Publisher)
法政大学地理学会
(雑誌名 / Journal or Publication Title)
JOURNAL of THE GEOGRAPHICAL SOCIETY OF HOSEI UNIVERSITY / 法政地理
(巻 / Volume)
4
(開始ページ / Start Page)
75
(終了ページ / End Page)
76
(発行年 / Year)
1956-05-01

いはじめて本来の自然的な村の村としての機能を展揮できるようになりこれが「郷村制」としてとらえられるというふうに理解されていた。しかしこの機な問題よりも更に重要なことは被雑な半奴隷制的諸身分層をもつて構成されている中世の農民の生活の場としての村落は村落社会の構造、諸機能にこのような関係をいみなる形で投影し、その村落社会は如何なる性格をもつているのといった問題であろう。」と社会経済史像の「村落」に対する観察態度がよく現かれている。しかし我々に大事なことは中村氏も指摘されたように中世村落の実践すなわら古代村落とは内容的に類似のものか異質のものなる。もし異質のものであればどのように内容的に異質のものであるか。な世異質のものでなければいけないのか。「中世村落」という言葉にとらわれずせの実践について把握する事であろう。地理学者の汚化としては米倉二郎氏「中世村落の様相一附円焼き頻尾張岡富田庄高野山銀紀伊国官省特庄一」(地理論叢者8巻昭11)の他、極めて少なく、実態はほとんど明かにされていない現状である。

最後に今一つ興味をそとるものとして鈴木保太朝氏の「北海道だより」を おいおきたい。長い国鈴木教授の持論として臍裏にあつた課題は日本の裏材 は結局において米国のラーバンコミュニティの方何に変容し、農村の田舎町 えが依存度が更に大きくなるという事で北海道の農村の社会構造がアメリカ のそれに題もよく似ているとの考えからこの事を追求することが渡道の一四 ともなったほどで、氏の「たより」は北海道内陸の機村地域には農民と農家 はあるが内地でいう自然村(右居的村落をなす)はない、そして宿居集落は 非農業人口からなる田舎町で市街地と呼ばれているものだけである。」と北 海道と内地の質の差を非常に大きく考えて居られる。はたして面者は教授の 考えられるように本質的差異があるのであるうか。村落の成立年代の新旧と いう「時」を考慮に入れ更に深く村落の実態を検討する必要のある事を北て 教授井上修次氏はかって指摘して居られた事を思い出す、(1956.4./2)

## 术曾一术嘗綜合農村調查報告書

青水干枝子

 夢にする。

まずカーに、この本は刃(の調査員の提出した記録をもとに編集されたものであり、編集にあたっては、4つの班毎にまとめたものを集録した点に、各項に個性がある事をみとめたい。と共に同じような性質の質が重複したり、比較な細い点では突込みの出来ないものなあるという弱点も生れて来る。このような問題をも含むとはいえ、ともの(学生の自治的な農村調査の発表としてまとめ上げられた事は、何といっても大きな業績であり、数刃の大学、各個の専攻別という異つたがループが結集して一つの調査をなりえたという事は、今後の調査活動に対して、新しい在り方、また将来への方向をしめしたものといえよう。

しかし、この報告書の持つ特色は、このような調査を単なる調査だけに終らせずに、参加者一同の勉挙場としている点である。活動の及省という章がおのおのにあり、その中で、共同の調査の進め方、チームワークの取り方を誘いている。総合調査の将来の在り方として、男くの人々が手をたずさえる機会が増して行くに従い、この及省の質は幾男の問題を提出してくれている。学生のなしたた一つの仕事という事と共に明日の為の学問をなして行く人々に共麻をもたらすものとして、一読されて欲しいと思うものである。

(1956.4.2)